



木工産業の維持、 促進の施策について

神野 恒彦 議員

問Ⅱ本市の経済発展のため木工産業の維持、促進にどのような施策を推進しているか、伺いたい。

答Ⅱ大川家具のブランド化の戦略としては、産学官が連携し「大川インテリア産業リバイバルプラン」に取り組んだところであり、輸出を視野に入れた事業展開が期待できるのではと考えられる。

また、インターネット上に大川マーケットのようなものを作り、木工関連産業はもちろんのこと、いろんな業種の方に店舗展開をしていただき、大川の商品の中身をわかりやすい形で紹介し商売につなげていくといった、新しい取り組みを進めたい。

メディア戦略については、昨年は木工まつりに合わせて市のPRも一緒に行っており、九州一円を視野に入れ今年も木工まつりに合わせ集中的にテレビ、ラジオ等においてPRをしていきたい。

市としても、今後も引き続き各種施策を確実に実施しながら、国県をはじめ業界各団体と連携を密に図り、大川市全体で基幹産業であるインテリア産業の振興に努めていきたい。



県道水田大川線への バイパス整備について

岡 秀昭 議員

問Ⅱ市役所前のいちよう通りについて、国道385号線と交差した先の東側部分が袋小路となっているので、南側を東西に走る県道水田大川線へとつながるバイパス道路を整備し、筑後、八女とつながる幹線道路として整備すれば経済的効果がかなり期待できると思うが、市長の考えを伺いたい。

答Ⅱ現在のところ、本市において当該バイパスを広域的な道路として整備する計画はなく、県及び柳川市が関係団体となるが、いずれからも具体的な整備についての協議はない。

幹線道路については、長期の総合計画の中で、全体の道路網との整合性も考えて計画整備を行っていかねければならず、県道水田大川線については、拡幅がまだ終わっていない県道沿線住民の道路拡幅への要望、期待が当然あることから、道路整備の事業者の県においては、このバイパス整備については難しい判断があると思われる。

ただし、県道の場合は、接続するそれぞれの自治体同士が連携を図りながら県を動かし、浮揚していくことは重要である。



市道郷原一ツ木線 について

中村 博満 議員

問Ⅱ市立図書館と大川中央公園の間を通る郷原一ツ木線は、いちよう通りから国道208号線、有明海沿岸道路へと通じる便利な道であるが、速度規制標識が街路樹に隠れていたり、名称のない交差点もある。また、市民が里親となり山桜が植樹されているこの通りは名前がまだ無いが、市長の考えを伺いたい。

答Ⅱ速度規制の道路標識は警察の管轄で、市が山桜を植樹する前に、公安委員会が植樹帯の中に設置したものである。

植樹により道路標識が確認しづらくなっている箇所があるので、改善できるよう警察と協議を進めたい。

郷原一ツ木線の2箇所の交差点については、平成21年度に信号機が設置されたところであるが、現在、道路利用者に目的地への経路や地点等に関する情報を提供する交差点名の案内標識はついていない。設置については、名称の決定方法も含めて今後検討していきたい。桜の里親制度により山桜が植樹されているこの通りは、すでに「山桜通り」ということで市民の間では浸透しつつあるので、その方向で決定していきたい。